

原因・理由表現の地理的概観

日高 水穂
小西 いずみ
竹田 晃子

1. 全国分布概観

まず、『方言文法全国地図』（国立国語研究所）の関連図により、原因・理由表現の全国分布を概観する。『方言文法全国地図』には、共通語の「から」と「ので」に相当する形式の分布図として、次のような項目が収録されている。

第33図 雨が降っているから行くのはやめろ。(図1参照)

第37図 子どものでわからなかった。(図2参照)

第33図は後件が命令文（行為要求の文）で「ので」よりも「から」が現れやすいとされるもの、第37図は後件が叙述文で「から」よりも「ので」が現れやすいとされるものである。以下では、この2つの分布図から、「から」「ので」に相当する主要な形式の全国分布状況を概観する。

まず、第33図には、以下のような形式の分布が見られる。

- ・東北地方の太平洋側から関東地方にかけてカラが広く分布している。西日本では、宮崎県や鹿児島県の種子島・屋久島・奄美大島などにカリ・カイ・カラニ・カランというカラ系の形式が見られる。
- ・西日本には、ケー系の形式（ケー・ケ・ケニ・ケン・ケンガ・キー・キ・キニ・キンなど）が広く分布している。
- ・中部地方にニ、デが分布している。デは、鹿児島県を中心に九州南部にも分布している。
- ・近畿地方から東日本の日本海側にかけて、以下のようなサカイ系の形式が分布している。
 - 〔サ-〕 サカイ（ニ）・サカ（ニ）……………近畿地方・北陸地方
 - サケー・サケ（ニ）・サエ……………近畿地方・山形県
 - 〔ス-〕 スカイ（ニ）・スケ（ニ）……………新潟県・岩手県・青森県
 - 〔ハ-〕 ハゲ・ハゲアーニ……………山形県・秋田県
- ・青森県から秋田県にかけてハンデ系（ハデ・ハンデ・ハンテ・アンテ・エンテ・ンテ）が見られる。
- ・新潟県中部地方にンダンガ系（ンダンガ・ンガ）が見られる。

- ・近畿地方にヨッテ系（ヨッテ・ヨッテニ・ノッテ）が見られる。
- ・長崎県にセン系（セン・テン）が見られる。
- ・沖縄本島にクトゥ系（クトゥ・ク・トゥ）が見られる。
- ・奄美大島、宮古・八重山諸島にバが見られる。

東日本では多様な形式が複雑に分布しているのに対し、西日本の分布は単純である。東日本では、一地点で複数の形式が併用されている場合も多く、それによって生じたと見られる混交形も認められる。サカイ系とハンデ系の混交形と考えられるステ（青森県）とサゲテ・ハゲッテ（秋田県・山形県）、ハンデ系とカラ（ニ）の混交形と考えられるエンテガ（ニ）・ンテガ（ニ）・ンテガラ（秋田県）、サカイ系とカラニの混交形と考えられるサカライニ（富山県）などである。

次に第 37 図であるが、第 33 図と異なる形式の分布状況について見ると、以下のような点が注目される。

- ・関東地方を中心にノデ系（ノデ・ンデ）が分布する。
- ・中部地方を中心にモノを含む形式（モンデ・モンダイ・モンダン）が分布する。
- ・青森県の一部にドゴデが見られる。
- ・秋田県、岩手県の一部にタメニが見られる。
- ・北陸地方にガデ・ケデ・ガンネが見られる。
- ・山陰地方にデが見られる。
- ・奄美諸島・沖縄本島にティ・ティーが見られる。

これら 2 つの分布図を比較すると、「から」の調査文と「ので」の調査文で異なる形式を回答する地点は東日本に多く西日本には少ないことがわかる。また、「から」の調査文に現れる形式は「ので」の調査文にも現れる場合が多いのに対し、「から」の調査文には現れず「ので」の調査文にのみ現れる形式が多く存在する。その中で例外的なものとして注目されるのは、中部地方のニである。この形式は「から」の調査文のみに現れ、「ので」の調査文にはほとんど現れていない。

この他、『方言文法全国地図』には現れていない（あるいは現れていても少数地点にとどまる）が注目される原因・理由形式として、山梨県奈良田のドーデ、近畿中央部のシ、沖縄県那覇市首里のムンヌがある。

2. 共通調査と辞典項目

以上の分布状況をふまえ、原因・理由表現形式の地域差に関して要地となる方言として以下の方言を選定し、共通調査項目による記述を行った。それぞれ記述の対象とした原因・理由形式を挙げる。

- (1) 青森県東津軽方言：ハンデ、ドゴデ
- (2) 青森県八戸市方言：スケ、カラ（ガラ）

- (3) 山形県山形市方言：カラ（ガラ）
 (4) 山梨県早川町奈良田方言：ドーデ， デ， ニ
 (5) 富山県富山市方言：サカイ， サカイニ， ノッテ， デ， ガデ， モンデ， モンダサ
 カイ
 (6) 富山県立山町方言：ケニ， ガデ， モンダケニ
 (7) 岐阜県岐阜市方言：デ， ニ
 (8) 京都府京都市方言：サカイ， サカイニ， シ， ンデ， カラ
 (9) 大阪府摂津方言：シ， カラ
 (10) 広島県三次市方言：ケー
 (11) 沖縄県那覇市首里方言：クトゥ， ムンヌ
 (12) 沖縄県宮古島市平良字下里方言：バ

また、辞典項目としては、以下の形式（冒頭が代表形、()内が変異形）を記述の対象とした。

カラ（カリ・カイ・カラニ・カラシ）

クトゥ（クトゥ・グトゥ・フトゥ・トウ・ットゥ・ットゥ・トウニ・ク）

ケー（ケ・ケン・ゲン・ケニ・ケーニ・キー・キ・キン・キニ・ケンガ・ケンカー・ケデ）

セン（シェン・センカ・センカー・シェンカ・シェンカー・テン・デン・ソエ・ソイ・サエ・シャエ・セ・セニ・セー・セーネ・セーデ・セニ・シニ・サニ・エニ・エネ・ソエネ）

サカイ（サカイニ・サカライニ・サカ・サカエ・サカエ・サケー・サケ・シェケ・サゲ・サゲテ・ハゲア・ハゲ・ハゲッテ・ハゲンデ・スケアニ・スケーニ・スケニ・スカイ・スケアー・スケア・スケー・スケ・ステ）

シ

ダス（ダシ・ンダス）

タメニ（タエニ）

デ（ゼ・ジ）

ドゴデ（ドゴロデ・トコデ）

ニ（イ・ン・ネ）

バ（バ・パ・ボ）

ハンデ（ハデ・ハデア・ハンデ・ヘアンデ・ヘンデ・ヒェンデ・エンデ・セーデ・ハンテ・ヒャンテ・アンテ・エンテ・エッテ・エンテガニ・エンテガ・ンテ・ンテガラ・ンテガニ・ンテガ・テカニ）

ヨッテ（ニヨッテ・ヨッテニ・ヨッテン・ユッテン・ノッテ・ニッテ・ンッテ・ンテ・ッテ・テ・テー）

ンダンガ (ンガ・アンダンガ・ンダン・モンガ)

3. 比較・対照

(1) 形式

今回記述の対象とした各地方言の原因・理由形式のうち、主要なものを形式面で整理してみたい。まず、形式の由来と語構成の面から整理すると、以下のようになる。

- (a) 古典語の已然形+バに由来するもの：バ系
- (b) 格助詞に由来するもの：カラ、デ、ニ
- (c) 形式名詞 (+格助詞) に由来するもの
クトゥ (事), ドゴデ (所で), サカイ (ニ) (境に), ハンデ (程にて)
- (d) 準体助詞+格助詞：ノデ, ガデ
- (e) 動詞テ形に由来するもの：ヨッテ系 (<によりて)
- (f) 並列の接続助詞に由来するもの：シ
- (g) 由来が不明なもの：ケー系

已然形+バが衰退したのち、多様な形式が生じた原因・理由表現であるが、語構成のパターンとしては、形式名詞ないしは準体助詞という名詞性の要素に格助詞を付した形が定型形式の一つであると言える。

また、東日本方言では、複数の原因・理由形式が併用される地域において、それらの混交形も生み出されている。1でも触れたが、以下のようなものである。

- ・サカイ系+ハンデ系：ステ (青森県), サゲテ・ハゲッテ (秋田県・山形県)
- ・ハンデ系+カラ (ニ)：エンテガ (ニ)・ンテガ (ニ)・ンテガラ (秋田県)
- ・サカイ系+カラニ：サカライニ (富山県)

混交の際の語順には、サカイ系-ハンデ系-カラ (ニ) という傾向が読み取れ、中央語において出自の古いものが後ろに位置するように見える。東日本方言への伝播順がこれに対応しているとすると、新形式+旧形式の語順で混交が起きている、と見ることもできるかもしれない。あるいは名詞性を残している要素が前に来るということかもしれない。その場合は、混交形の語順を見ることで、前部要素と後部要素の文法化の程度差を読み取る手がかりが得られることになる。

(2) 用法

諸方言の原因・理由表現の用法の記述にあたり、共通調査項目に従って、以下のように意味・用法を分類した (代表例文に付した数字は共通調査項目番号)。

【1】従属節用法

(1) 事態の原因

- ・毎日雨が降る {から/ので}、洗濯物が乾かない。(1-1-1)

(2) 行為の理由

- ・体調が悪い {から/ので}, 仕事を休むことにした。(1-2-1)

(3) 判断の根拠

- ・星が出ている {から/ので}, 明日もいい天気になるだろう。(1-3-1a)

(4) 発言・態度の根拠

- ・危ない {から/ので}, この川では遊ぶな。(1-4-1)

(5) 理由を表さない用法

- ・すぐに戻ってくる {から/ので}, ここで待っていてくれ。(1-5-1)

【2】 述語用法

- ・A「気分が悪い。」 B「あんなにたくさん飲むからだよ。」(1-6-1)

【3】 文末用法

(1) 倒置

- ・ここでちょっと待っていて。すぐにもどって来るから。(1-8-1-1)

(2) 終助詞的用法

- ・あとで、もう一度電話するから。(1-8-2-1)

【4】 接続詞用法

- ・最近毎日雨が降る。だから洗濯物が乾かない。(3-1-1)

「倒置」は修辭的なもので原因・理由形式の意味用法とは言えないが、接続助詞が終助詞用法を獲得する際の契機となるものであると考え、記述の対象とした。

今回記述の対象とした原因・理由形式は、従属節用法の(1)～(5)の意味用法では、実質的な差がでるものではなく、すべてをカバーするものが多かった。ただし、これらの用法の区別と大きく関わりのある、後件の文タイプによる使用制限が見られるものがあつた。すなわち、後件が要求文である場合に使いにくくなる形式がある一方、逆に後件が叙述文である場合に使いにくくなる形式が存在するのである。前者は(2)～(4)の意味用法に關与する構文的条件であり、後者は(1)の意味用法に關与する構文的条件である。また、推量形に後接するかどうか、述語用法(XはYからだ)が可能であるかどうか、文末用法が可能であるかどうかにも差が見られた。

以上の用法・構文条件に従って、主要な原因・理由形式の用法を整理すると、次ページの表1のようになる。

全般的に見て、形式名詞・準体助詞を含む形式に制限が多い、ということが言える。その中で、青森県東津軽方言のハンデ、沖縄県那覇市首里方言のクトゥは、名詞性の要素が文法化したものでありながら、用法を最大限に拡張させている点が注目される。

また、岐阜市方言のニは後件が叙述文の場合に使用できない、という原因・理由形式の中では特異な性質をもつ。なお、中部方言のニは、逆接(ノニ相当)の意味領域までカバーするため、今後は、後件のモダリティ制限もそうした用法の広がりとともに見ていく必要があるだろう。

表1 原因・理由形式の用法の比較

用法・構文条件 形式（報告地点）		【1】従属節用法			【2】 述語用法	【3】文末用法	
		後 件 が 叙 述 文	後 件 が 要 求 文	推 量 形 へ の 後 接		(1) 倒 置	(2) 終 助 詞 的 用 法
バ系	バ（沖縄県宮古島市平良字下里）	○	○	○	○	○	○
カラ系	から（共通語）	○	○	○	○	○	○
デ系	デ（山梨県奈良田）	○	○	×	×	○	○
	デ（富山市）	○	○	×	×	○	？
	デ（岐阜市）	○	○	○	○	△	△
ニ系	ニ（山梨県奈良田）	○	○	○	×	×	○
	ニ（岐阜市）	×	○	○	×	△	○
クトゥ系	クトゥ（沖縄県那覇市首里）	○	○	○	○	○	○
ドゴデ系	ドゴデ（青森県東津軽）	○	△	×	△	○	×
サカイ系	スケ（青森県八戸市）	○	○	×	×	○	○
	サカイ(ニ)（富山市）	○	○	×	△	○	○
	サカイ(ニ)（京都市）	○	○	△	○	○	○
ハンデ系	ハンデ（青森県東津軽）	○	○	○	○	○	○
準体助詞+デ	ので（共通語）	○	○	×	×	○	○
	ガデ（富山市）	○	△	×	×	△	△
	ガデ（富山県立山町）	○	△	×	×	？	？
ヨッテ系	ノッテ（富山市）	○	○	×	×	○	○
シ系	シ（京都府京都市）	○	○	○	○	○	○
	シ（大阪府摂津）	○	○	○	△	○	○
ケー系	ケニ（富山県立山町）	○	○	△	○	○	○
	ケー（広島県三次市）	○	○	○	○	○	○

○ 使用できる △ 使用しにくい × 使用できない ？ 不明

参考文献

小林賢次（1992）「原因・理由を表す接続助詞—分布と史的変遷—」『日本語学』11-5
 彦坂佳宣（2005）「原因・理由表現の分布と歴史—『方言文法全国地図』と過去の方言文献との対照から—」『日本語科学』17
 ————（2006）「地図に見る方言文法 第33・37図（雨が）降っているから，子どもなので（わからなかった）」『月刊言語』35-12

（解説：日高水穂，作図：小西いずみ・竹田晃子）

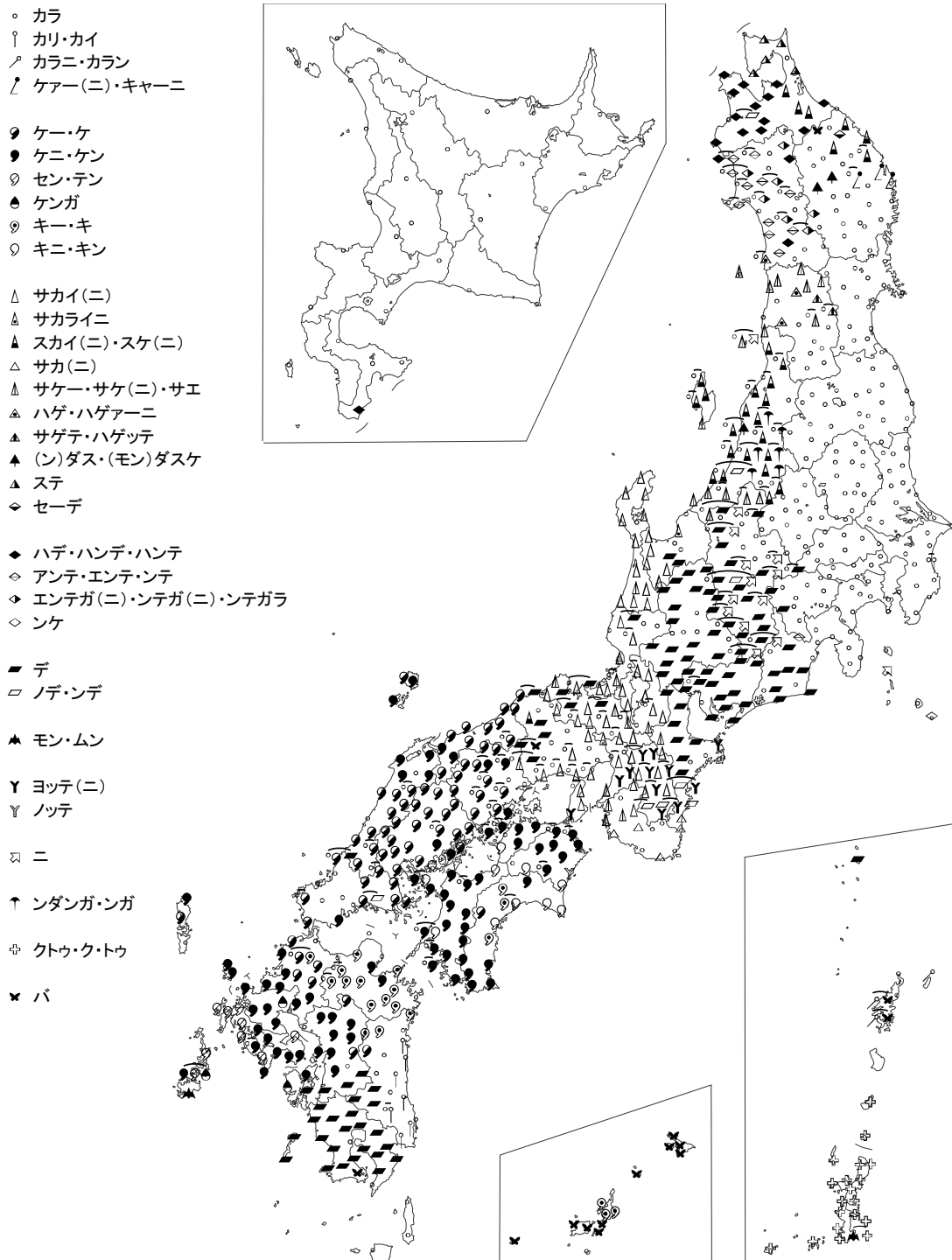


図1 『方言文法全国地図』第33図「雨が降っているから行くのはやめろ」(略図)

(作図：小西いずみ・竹田晃子)

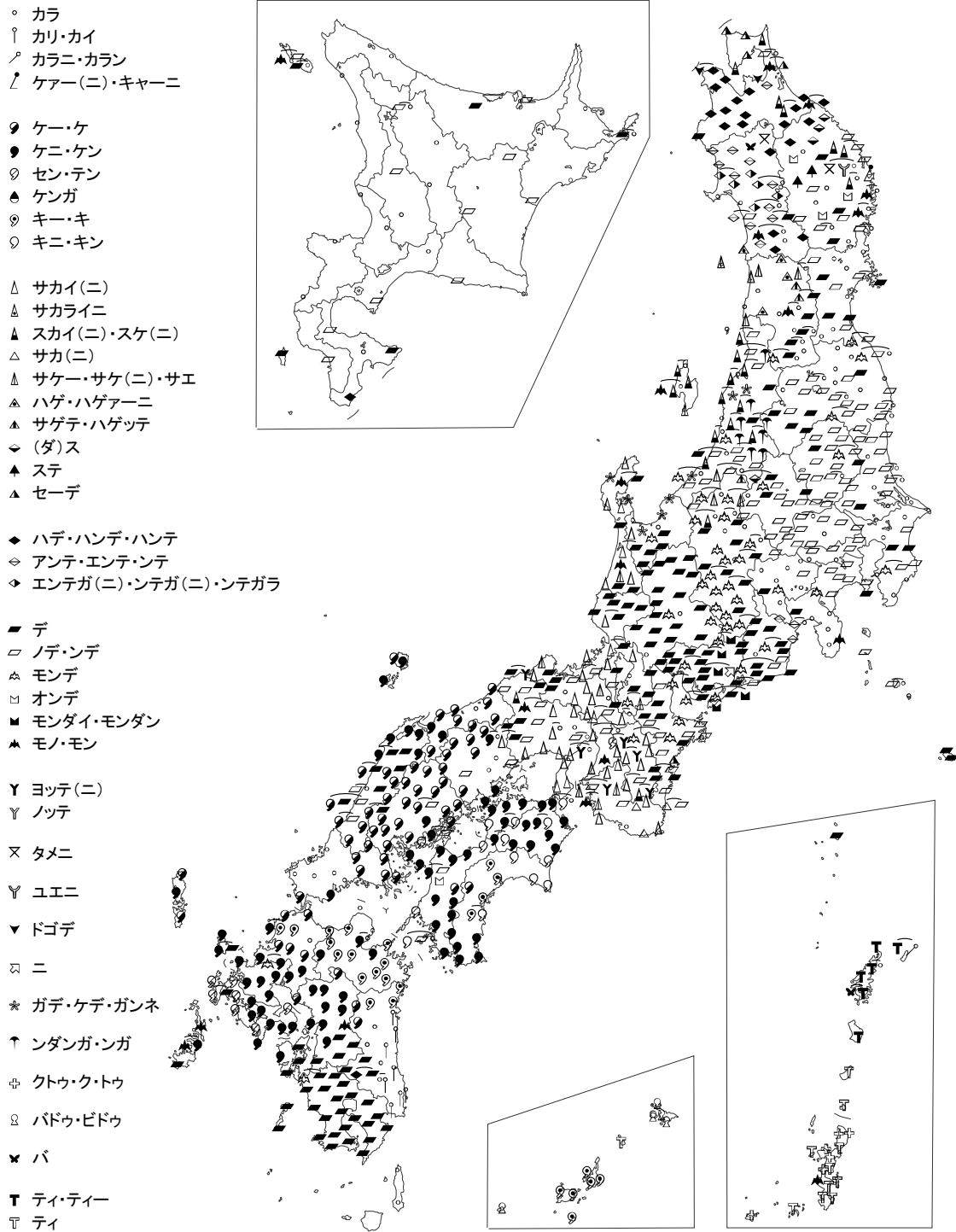


図2 『方言文法全国地図』第37図「子どもなのでわからなかった」(略図)

(作図：小西いずみ・竹田晃子)